


# 抗がん剤プロトコール 届け票

申請日	平成 23 年 2 月 4 日	
申請者	所属科:外科	医師名: 澤見 浩和 
抗がん剤プロトコール内容		
略名	FOLFIRI+アバスタチン	
適応臓器名	進行・再発大腸癌	
薬剤名	フルオロウラシル注射液(商品名:5-FU 注) レボホリナートカルシウム注射剤(l-LV) (商品名;アイソボリン注) 塩酸イリノテカン注(CPT-11) (商品名:カンプト注) ベバシズマブ(遺伝子組み換え)注(商品名:アバスタチン点滴静注用)	
注意点	各薬剤の注意点を遵守すること。	
用法・用量・投与スケジュール		
2 週(14 日間)を 1 コースとして繰り返す。 day 1 1) ベバシズマブ(アバスタチン注)として 5 mg/kg(体重)又は 10 mg/kg(体重)注射筒で抜き取り、日局生理食塩液に添加して約 100 mL にし、初回投与時は 90 分かけて点滴静注する。初回投与の認容性が良好であれば、2 回目の投与は 60 分で行ってもよい。2 回目の投与においても認容性が良好であれば、それ以降の投与は 30 分間投与することができる。 2) 前投薬:5-HT <sub>3</sub> 受容体拮抗型制吐剤+デカドロン 8~20mg 3) CPT-11 として1回 150 mg/m <sup>2</sup> (体表面積)と l-LV として1回 200 mg/ m <sup>2</sup> (体表面積)を別々のバッグに入れて同時に 2 時間かけて点滴静脈注射する。 4) その後 5-FU として1回 400 mg/m <sup>2</sup> (体表面積)を 15 分以内で急速静注し、 5) 5-FU として1回 2400 mg/m <sup>2</sup> (体表面積)を 46 時間かけて持続静注する。		
Evidence	NCCN ガイドライン 2011.ver2 2010 年度版大腸癌治療ガイドライン 臨床試験 ① [英文] 転移性結腸直腸癌の 1 次治療におけるイリノテカン+静注, ボーラス, または経口フルオロピリミジンに関する無作為化比較対照試験 BICC-C 試験の結果: (Fuchs CS et al:JCO 25:4779-4786,2007) ② 切除不能大腸癌二次治療例に対する FOLFIRI+ Bevacizumab 療法の第 II 相試験 (Horita Y et al:Cancer Chemother Pharmacol 65:467-471.2010)	
備考		
がん化学療法委員会承認日: <b>23.2.21</b>		